

I 目指す学校

1 教育目標

- (1) 自主・協調の精神を養う
- (2) 知性を高め、体力の向上を図る
- (3) 豊かな心を培う

2 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

選択科目を充実させ、一人一人の進路希望に則した丁寧な指導を行うことで、進路の実現を目指します。学習活動を通じて自ら進んで学び、体力の向上を図ることのできる生徒、学校行事を含めた日々の生活の中で、自主性や協調性の精神を養うと共に、他者の気持ちに寄り添うことのできる豊かな心をもった生徒を育成します。

(2) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

※すべての教育活動を通して、次の3つの能力の伸長と獲得を目指します。

- 自分の長所・短所を理解し、よりよい人生を生きようと前向きに努力する力
- 何事にもあきらめずに、分析や考察を行い、柔軟な思考で課題解決に向き合うことのできる力
- 社会人としてのルールやマナーを遵守し、周囲に誠実に向き合える力

② カリキュラム・ポリシー

- 基礎学力の確実な定着を図り、多様な選択科目から、自らの進路や興味関心に応じて学びを深めることで、生徒一人一人の進路の実現を目指す。
- 体力の向上、感性の高まり、実生活の課題解決力を育み、未来を生き抜く力を目指す。

③ アドミッション・ポリシー

- 本校への入学を強く希望し、日々の学習に真剣に取り組む、学力向上を目指し、常に努力を惜しまない生徒
- 中学校において、生徒会活動や部活動、その他学校内外の活動等に積極的に取り組んできた生徒で、入学後も継続して活動する意志のある生徒

II 中期目標と方策

1 生徒の学力向上と大学合格実績の積み上げ

生徒の学力を高め、志望する大学への合格実績を向上させる一環として、デジタル技術を活用した教育の研究を行う。また、学期中の平日や週休日及び冬季長期休業日等の補習、補講を充実させる。さらに、教員の資質・能力を向上させるために教員相互の授業参観や校内悉皆研修（「TOKYOデジタルリーディングハイスクール事業（TOKYO教育DX推進校）」推進、探究推進、生徒相談研修会）、学校評価等を活用する。授業公開期間中にデジタル・探究授業促進週間として外部に授業を公開する。

2 生徒の進路希望を実現する進路指導の実践

生徒の進路希望を実現するために、三年間の展望を見通した系統的な進路計画を策定し、進路情報や指導内容の共有化を図った組織的な指導体制を構築する。また、保護者対象の講演会や保護者会、三者面談等の実施等、家庭と一体となった進路指導を推進する。

3 基本的な生活習慣と規範意識の涵養

新しい生活様式の定着に向けて、生徒の基本的な生活習慣と規範意識を涵養するために、校内で共通した指導内容による組織的な生活指導を実践する。特に、挨拶の励行、頭髪や服装等の身だしなみ、遅刻防止指導の徹底等、社会的なマナーの育成を重視する。併せて、教職員による日常の生徒の状況把握や情報の共有化によるいじめ防止、自殺防止に向けた生命尊重の精神や態度の育成、情報モラルの育成及びよりよい生徒同士の人間関係の形成を図る。

4 自主性や協調性、責任感を高める特別活動及び部活動の振興

生徒会活動や学校行事、委員会活動、部活動等は、教員の組織的な支援体制により生徒に成功体験を得させ、自主性や協調性を育成する。また、日野市教育委員会、近隣小・中学校や特別支援学校との研究活動や交流活動を積極的に推進する。

5 体力づくりと健康・安全教育の充実による健康の保持増進

地域や関係機関と連携した防災教育、交通安全指導を推進する。また、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考とし、「体力テスト」の結果に基づいた体力向上に向けた取組を推進する。さらに、シニアスクールカウンセラーやスクールカウンセラー、外部機関との連携による相談体制を充実させる。

6 広報・募集活動の推進

総務部を中心とした組織的な広報活動や募集対策を推進する。とりわけ、新ホームページの活用を工夫し、公式T w i t t e r、SNSの安全な利活用により、外部に向けて充実したリアルな情報を積極的に発信し、学校の魅力を伝える機会とする。また、近隣の中学校や関係団体が主催する進学説明会へ積極的に参加するとともに、長期休業日や平日の学校見学会を充実させる。

7 地域との連携を深める取組

近隣施設連携や地域行事等への参加、地域の清掃活動等のボランティア活動を推進する。

8 学校経営・組織体制の活性化

会議の効率化等の働き方改革を推進し、教員のライフワーク・バランスの実現のために、効率的な業務の遂行に努める。また、学校評価を活かして、教育課題に対応した適正な予算編成及び執行を行う。さらに、改築を機に今後、生徒一人一人に応じたきめ細かな教育を推進し、未来の東京を担う人材を育成する学校経営の在り方を検討していく。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 「学習指導」

(1)「TOKYOデジタルリーディングハイスクール事業（TOKYO教育DX推進校）」推進校と観点別評価の研究

生徒がデジタル教科書等を活用した学びや、学習履歴等のデータ分析・利活用、先端技術の活用に関する実践的な研究を実施して効率的な学習が進められるようプロジェクトチームを組織し、各教科単位でも端末の活用方法について研究を行う。また、観点別評価についても推進校の取り組みを活用し、同様に研究を深める。

(2) 大学入試改革への対応としての英検指導

大学入試改革への対応の一環として、実用英語技能検定試験準2級以上の合格者を増加させる。

(3) 探究活動の充実を中心とした新学習指導要領の研究と校内研修の実施

探究的な学びの充実を図るため、教員相互の授業参観、若手教員や中堅教員研修の公開授業を活かした計画的な各教科の研修及び学校全体での校内研修を実施し、新学習指導要領について理解を深め、探究活動を取り入れた指導法の工夫、改善に取り組み。

(4) 理数教育推進校の実践

地域環境と設備を活かした理数教育の充実を目指し、推進校として意欲的な取り組みを実践する。

2 「進路指導」

(1) 補習・補講、模試の積極的实施

各学年が主体となり、地域校外施設なども活用し、平日や週休日、長期休業期間中の進路対策や学習が遅れがちな生徒を対象にした補習・補講等を組織的・計画的に実施する。

(2) 組織的、系統的な進路指導

進路希望の実現に向け、情報を共有して組織的な指導と、「進路の手引き」を活用した系統的な3年間の進路計画に基づいた指導を推進する。

(3) 探究活動を活かした大学入試改革への対応

大学入学共通テストをはじめとした大学入試の動向を分析し、大学入試改革に向けた対応を図ると共に、探求活動を活かした入試制度にも選択の幅を広げ指導・充実を図る。

(4) 高い目標への挑戦意欲の育成

TOKYOデジタルリーディングハイスクール事業(TOKYO教育DX推進校)推進校としての成果を活用し、進路適性を的確に判断するために、学習履歴等のデータ分析・利活用、先端技術の活用に関する実践的な研究の結果を分析することにより、データに基づいた指導を実践する。

(5) 保護者との情報の共有

保護者会や進路啓発講話、三者面談の実施やホームページやSNS等の安全な利活用により、保護者とのリアルで遺漏の無い情報の共有化を図り、家庭と連携を深めた指導を推進する。

(6) 体験的学習と進路講話

生徒が適切な進路選択が行えるよう体験的学習(国公立を含む上級学校訪問や大学等の体験授業、職場体験等)や大学教員や学生、企業等の講師による進路講話等を積極的に実施する。

3 「生活指導」

(1) ルールやマナー及び情報モラルを遵守する指導

本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、授業や集会等あらゆる場面で時間を意識した行動を徹底させ、授業や集会における規律、ルールやマナーを遵守する指導を組織的に行う。また、家庭とも連携して携帯電話や端末を適切に使用するための情報モラルの育成を図る。

(2) 身だしなみの指導

頭髪や服装などの身だしなみについては生徒・保護者等の協力を得て、統一した基準で年間を通して計画的、継続的に指導する。

(3) 遅刻防止及び盗難防止指導

時差登校の解消等の影響による生活習慣の定着を図るため、遅刻防止、安心・安全な生活の為の指導を重点的に推進し、主に遅刻の3割減少を目指す。また、スクールサポーターの巡回など外部機関との連携を進め、盗難防止指導等を徹底する。

(4) いじめや自殺防止の対応

研修や生徒相談機能を充実させ、体罰の禁止・根絶、いじめの未然防止・早期対応や自殺防止に関する情報の共有化を図ると共に、アンケート等を活用し早期発見に努め、「SOS」の出し方に関する教育を組織的に推進する。いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織として素早く対応し、外部機関とも連携した解決を図る。

4 「特別活動・部活動」

(1) 特別活動の充実

生徒の意欲的な取組を支援し、体育祭、文化祭、合唱祭の学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動を新たな発想で共に創りながら復活させ、充実させる。

(2) 部活動の充実・発展

部活動の加入を奨励し、「Sport-Science Promotion Club」推進校として意欲的に活動する。また、文化部活動推進校を目指す取組を基盤として、全校体制で運動部・文化部共に全国大会を目指し活動の充実・発展を図る。

(3) 近隣関係学校との交流

日野市内中学校を主に対象とした「日野カップ」等を実施すると共に、部活動や生徒会活動における近隣小・中学校や特別支援学校との交流活動を再開させ、更に充実させる。

5 「体力向上と健康づくり」

(1) 体力テストを活用した体力向上

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考とし体力テストの結果を活用した体力向上に向けた取組を推進する。体力向上の取組は学校 2020 オリンピック・レガシーとしていく。

(2) 健康・安全に留意した実践的な態度の育成

防災教育研究指定校及び安全教育推進校として避難訓練や健康講話、交通安全教室等の実施により、生涯に亘って主体的に健康・安全に留意した生活習慣を身に付け、日常生活でも安心・安全な毎日の生活が送れるようにする。

(3) 校内美化の徹底

リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰り等を全校美化週間の設定により、学校生活における環境を整理・整頓すると共に、校内外の美化意識の徹底や美化行動の習慣化を図る。

6 「広報・募集活動」

(1) 新設学校ホームページと部活動ニュース、公式TwitterとSNSの利活用

新しい学校ホームページの内容を充実させるために、ホームページ内の部活動ニュースやほぼ毎日更新している公式Twitter、SNSの利活用により、学習や行事の様子、部活動の成果やお知らせを積極的に情報発信し、学校の魅力や強みをアピールする。

(2) 本校への志願者を増やす取組

生徒主体の学校説明会の実施や出張説明会、部活動体験、中学校への出前授業、学習塾訪問を計画的、効果的に実施し文化祭や学校説明会への来校者を増やす取組の充実を図る。

7 「地域連携」

(1) 地域と連携した研究・教育活動や近隣清掃

地域の施設や日野市教育委員会、地域の小・中学校及び近隣自治会と連携した研究・教育活動を推進する。また、通学路などの近隣の清掃を学期に1回実施し、地域に奉仕する。

(2) 地域行事や関係学校行事への参加

部活動や生徒会等による地域行事への参加や地域の小・中・高、特別支援学校との共催行事等を積極的に計画し、学校全体での参加の機会を新たに共創する。

8 「学校経営・組織体制」

(1) 服務事故の防止

教職員による生徒に対する暴力（性暴力を含む）や暴言等の未然防止、個人情報保護や流失防止、生徒の答案の誤廃棄など、分掌や学年、教科が組織的に対応すると共に研修を充実させ、服務事故防止の徹底を図る。

(2) 業務縮減及び働き方改革の推進に向けた取組

委員会等組織の見直しや会議のオンライン・ペーパーレス化等で効率化を図り、業務縮減に向けた取組を推進する。また、自己申告面接等を通して、勤務状況を確認するとともに、適正な通勤経路の申告や定期券、自転車保険やヘルメットの着用努力義務の推奨を指導する。また、15日以上の有給休暇や男性職員の育休等の取得を進め、育産休業制度の積極的活用を図り、イクボス宣言等に基づいた、メリハリのある働き方改革を推進する。

(3) 特別支援教育の充実

関係機関や近隣の特別支援学校・拠点校との情報の共有化等の連携を深め、組織的な特別支援教育を推進する。また、関連校相互に学校運営連絡協議会委員となりお互いの学校理解・交流を促進し、支援の必要な生徒の就学支援に資する。

(4) 経営企画室、その他

教育職員や各支援員等と連携した教育活動等を通して経営企画室の経営参画力向上を図る。予算編成、執行等ではセンター執行率を増加させるなどコスト管理を進める。

改築期間を通して生徒、教職員の安全・安心な学校生活の確保へ施設・設備の警備・点検・整備を徹底する。新校舎への移転にあたっては円滑に進むよう組織的な調整を図る。

IV 今年度の重点数値目標（下記の数値は、令和4年度の実績数値である。令和5年度は校舎改築等の実情を踏まえ、その数値を概ね超えることを目標とする。）

1 生徒募集

- (1) 入選中進対倍率 1.08 倍
- (2) 入選推薦募集倍率 2.59 倍
- (3) 入選一次募集倍率 1.35 倍

2 大学等進学実績

- (1) (GMARCH) 現役合格者数 36 名
- (2) (成成明武) 現役合格者数 9 名
- (3) (日東駒専) 現役合格者数 59 名
- (4) 進路決定率 96%

3 学校生活満足度

- (1) 生徒の満足度
 - 「学習指導」64%
 - 「入学して良かった（総合）」77%
- (2) 保護者の満足度
 - 「学習指導」67%
 - 「入学させて良かった（総合）」91%

4 授業外学習支援

- (1) 実用英語技能検定準2級以上合格者数 88 名以上
- (2) 長期休業中の補習・補講時間 延べ 300 以上

5 部活動

- 部活動加入率 88%
- 部活動満足度 70%